



定例交流会で 骨折事故報告 2つ

安全センター

五月二五日、

定例交流会「最近の事故・災害報告」が、当安全センター事務所で開催されました。(参加八名)

台車には必ず

ストッパーを

二労組から似たような現場骨折事故が報告されました。一つは、透明シートのロール二本(一本二五キロ)を台車に今から寝かせて運ぼうとしたときに、台車が動きローラーが倒れてきて、受けとめようとした手先が床面とローラーの間に挟まれ、左手中・薬指先端を骨折したというもの。

台車にストッパーのないものがあった、あらかじめロールを横に倒したうえで転がり止めをして運ぶというような当たり前の対策とりました。

III、七〇キロを二人で持った

もうひとつは、ウマの上に置いていた長さ約三m、重さ約七〇キ

労災事故があった場合、所轄の労働基準監督署に「労働者死傷病報告」の提出が必要です!



【発行】
尼崎労働者安全衛生センター
【連絡先】
〒660-0802
尼崎市長洲中通 1-7-6
TEL・FAX 06-4950-6653



緩慢なる惨劇に立ち向かう6 (無料)

会社の出しているものを、労組でもチェックしたいもの

口の鋼製の攪拌翼の両端を二人で持ち運んだ際、一人がバランスを崩して転倒し、右手の小指が地面と攪拌翼に挟まれ、右手小指粉碎骨折したというもの。
二人作業は徹底されていましたが、バランスを崩した際の対策などが不十分だったとして、重量物の持つ位置や作業手順を掲示し、確認して作業をしてもらうよう呼びかけました。本当に、安全衛生の担当としては両方ともつらい事故です。

特養ホームの

パトロール実施

七月一九日、午後一時半から四時まで安全パトロールを実施しました。

阪神共同福祉会の特別養護老人ホーム園田苑とデイサービスセンターに受け入れてもらいました。

全国の福祉施設で腰痛、頸肩腕障害、精神疾患が問題になっていきます。園田苑は五〇人の施設利用者(平均介護度が三・五)を抱え、

大半の方が車椅子を利用されています。トイレ、ベッド、食事、お風呂、オムツ交換などで移乗や抱える作業などで大きな負担が掛かります。パトロールでは体操実施や整理整頓、休憩室などについての指摘がありました。(参加八名)

トイレに行くと熱中症予防

また、これからはまさに熱中症要注意の季節。おかしいなと思ったら、応急処置として首・わきの下・足の付け根の大きな動脈を冷やす、塩分を含んだ水を補給する。めまいや冷汗で脳への血の巡りが心配なケースでは、足を頭より高くする。救急車は手配しましたか？

こんな人もいます

職場でトイレの回数を減らそうとして水分補給をがまんすると、当然熱中症になりやすい。あなたの職場では遠慮なくトイレに行けますか？それと、職場には黒球付きのWBGT(湿球黒球温度)測定器を備えて基準値を確認しましょう。

福島原発事故当時一八歳以下だった三八万人のうち、この六年間に甲狀腺がんまたは「疑い」を合わせて一九〇人になったことが福島県の県民調査で明らかになった。(六月五日)心のケアも含めた治療・生活保障が重大。

東京電力の幹部にも様々な人がいる。元福島第一原発副所長であった増田哲将さんは、事故後自らの責任を感じ、東北で謝罪と鎮魂の行脚を続けているという。

医療・介護のうつも多いが、世界中大変

うつ病患者3億人超

WHO推計

2017.2.24 神戸新聞

【ジュネーブ共同】世界保健機関(WHO)は23日、世界でうつ病は23日、世界でうつ病に苦しむ人が2015年に推計3億2200万人に上ったと発表した。全人口の約4%に当たり、05年から約18%増加した。世界的に一般的な精神疾患になりつつあり、若年層の自死増にもつながっているとして早急な対策が必要だと指摘した。地域別ではインド、中国を抱えるアジア・太平洋地域で全体の約48%を占め、日本は約506万人。厚生労働省によると、うつ病は年齢が高くなるほど発症率が高い。15歳未満の子どもの発症率も増加している。15年の世界全体の自殺者は推計78万人で、死者全体の第一歩だと促した。

クボタシヨック一二年

深刻な被害、増える集会参加者

六月二四日、クボタシヨックから一二年の尼崎集会（中小企業センター）には、今年も二五〇名を超える（実質三〇〇人以上）人たちが参加しました。尼崎に患者やその家族・遺族が多いこと、西宮など阪神間での関心の高まり、作家・藤本義一の娘さんのお話、公営住宅居住での中皮腫発症の話題などが、人数を押し上げた原因だったと思います。参加者のうち尼崎安全センター関係は二五名、内一五名は阪神医療生協でした。残念ながら今年も現役の組合員はパラパラで、労働者運動の前途の厳しさを感ぜさせます。

重い被害者の訴え

集会では、「映像で振り返るクボタシヨック」、稲村和美尼崎市長の真剣な挨拶、そして塩見さんをはじめ、市内食満（けま）のアスベスト工場で両親を失った被害者遺族の訴え（ビデオメッセージ）、クボタ周辺の常光寺で育ったために五六歳で薬剤師の妻を中皮腫で



参加者 被害者の訴えを聞く

喪った庄林光雄さんの思いなどと続きます。本場に旭堂南陵師匠の講談や「患者と家族の会」の歌など間に挟んでもらわなければ、やはり、胸に重いものさしんとたまる集会でした。

阪本教授、

国の加害責任問う

今年には地元元尼崎出身の専修大学阪本将英教授からも、個人個人のアスベスト健康被害とアスベストばく露との因果関係ははっきりして

いたにも関わらず、国のやるべき大規模な疫学調査を怠り、その結果因果関係の立証が困難になり、

輸入・使用禁止の措置や飛散防止対策が遅れて国民に甚大な被害をもたらしたと指摘がありました。

クボタ周辺被害は

五五〇件に及ぶ

クボタへの「救済金」提出件数は六月二五日現在三二五件（うち女性一五三件）、クボタ旧神崎工場での石綿労災認定は一八〇名（中皮腫七五、肺がん五六など）。これに構内下請労働者の被害、ク

ボタに石綿を運んで労災被害者となった日本通運、クボタの石綿を吸いながら仕事をしてきたヤンマー等近隣職場の過剰な被害者を考えると、実際の被害はすでに五五〇名に達していると言えます。本当に、アスベスト被害の深刻さ、理不尽さをいやでも皮膚で受けとめざるを得ない尼崎の実態なのです。

二〇一七・六・二三 毎日新聞

「石綿は公害」なぜ認めぬ

24日に尼崎市で開かれる「アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」で、元市議の塩見幸治さん(66)が患者として発言する。石綿健康被害救済法に基づき、石綿による中皮腫と認定された塩見さんだが、石綿はく露は立証するハードルが高い。また、公害健康被害補償法は汚染原因者の責任を踏まえた制度のため、国はばく露の状況の特定が難しい。石綿被害を公害とみなしていない。塩見さんは「国や社会全体が公害問題だと受け止めてほしい」と改めて訴えるつもりだ。

【山本愛】

あす尼崎で集会

今年一月、国が尼崎は「原因企業うんぬん」市内で初めて実施した。ではなく、日本中に石綿健康被害調査で、塩見さん 綿をまき散らされたことは環境省の担当者に、とに、国の責任は本当「石綿による健康被害に無いのか」と、もどはなぜ公害として認められぬのか」と尋ね 塩見さんが右肺胸膜の中皮腫の診断を受けたのは2015年。だが、塩見さんら石綿に関わる労働に関わったこと、市職員や市議7期と、たのない「環境ばく露」石綿と関わる仕事をしなどの被害者にとって たことがない。思い当

「同じ患者 平等な救済を」 元尼崎市議・塩見さん訴え



石綿被害について思いを述べる塩見幸治さん＝尼崎市内で

たるとすれば、少年時代。自宅から約1000分の場所、当時石綿とセメントを混ぜた建材「石綿スレート」を扱う工場があった。道路を自動車が通ると粉じんが舞い上がった。「友達とスレート材に乗ってかくれんぼをしたり、秘密基地を作った」と、危険性を知らずに遊び回っていた。しかし、工場は1970年代に移転してお分だと感じている。「ばく露した方法が違うからといって、同じ患者なのに平等に救済されないことは納得できない」と強調する。塩見さんは今年4月、左肺などへの転移が見つかった。あとの位、自分に時間が残っているか。不安もあるが、声を上げ続けていくつもりだ。